

# 第1回新宿越年闘争 各班活動マニュアル

新宿連絡会・94-95新宿越年・越冬闘争実行委員会

台東区日本堤1-25-11

☎03(3876)7073

越年闘争本部電話 030-818-3450

## A、都下に流出した野宿労働者の冬の基本的性格

- (1) 都下に流出した野宿労働者の冬とは、寄せ場、飯場、中小零細企業から「いらなくなった労働力」として排出された労働者が最終的に「処分」・「淘汰」される季節であり、日雇・下層労働者の労務支配が最も貫徹する季節である。都区検討会の「越冬対策」は、一挙の、露骨な「処分」（放置）から発生する社会矛盾を緩和させるために、それを部分的、一時的に先送りさせ、「処分」・「淘汰」過程を社会的に隠蔽させる手段である。
- (2) 冬という季節は、都下に流出した野宿労働者にとって暖が取れる場所への移動として、また食料確保の容易な場所への移動として、野宿地を移動、固定化させる季節である。そして、時期的に仕事量が減り、駅手配等から仕事にいていた労働者が、年末を境に飯場等から大量に出、金のなくなった順に野宿へと舞い戻る季節である。年末の光景はいままでとは位相を異なる景色に変化する。夏の間、広範に散らばっていた労働者が、ある一定の密集度をもって再度、地域の拠点駅等に寄り集まるのが野宿労働者の冬でもある。そして、この「秩序」の再編期に、場所、毛布、食料の取り合いや、上下関係の形成など、窮乏故の内部矛盾の芽が育まれ、疑心暗鬼や、対立がはびこる季節でもある。一方、野宿労働者の地域への集中を根拠に、地域からの「環境浄化」作戦が、行政、警察、地元商店街などを軸に実施される季節でもある。
- (3) 越年期は一切の行政機関が閉ざされる。とりわけ、福祉事務所の長期の休止は、医療保護、法外援護がまる一週間受けられない事態となり、野たれ死にへと野宿労働者をより、追い込んで行く。「公然たる見殺し」は、越年期間に集中的に実施される。
- (4) これを隠蔽するため、年末の福祉による「狩り込み」や「街頭相談」が行なわれ、「越冬対策」のもと一時施設が開設される。が、これは、労働者間の分断を促進させながら、一部の労働者を病院や老人ホームで「合法的に処分」することであり、「救済」という、まやかしのポーズに他ならない。事実、今年の「越冬対策」という枠が、都区検討会には（たった）88人の収容以外ないことが、このことを物語っている。圧倒的多数の野宿労働者は、越年期間は「公然たる見殺し」状態に放置される。

- (5) また、都区検討会の「越冬対策」を踏み絵に、「行政はホームレスの対策をまがりなりにもしてやっている。これによって一部の人が助かるのも事実だ。これに反対するのは間違っている」なる世論を形成しながら、野宿労働者の運動に対する分断が計られる。「お前らの要求は、一部は飲んだ。お前らの運動で行政の尻は押せた、それで十分だ、後は行政にまかせろ」という懐柔と、行政への幻想が、施設収容の胎をバックにふりまかれる。そして、収容先では管理強化を進め、労働者間の横のつながりを破壊しながら、個人主義を植え付ける。

B、その上で、新宿的冬の特徴は、

- (1) 都内最大の開放型地下道と、繁華街の存在、就労経路の近さ、そして、運動体が追い出し策動と抗している条件の中、都内最大の野宿者居住地としての位置が冬期にも更に鮮明になる。巨大繁華街の残飯以外にも、3団体以上の炊き出し団体の存在、新宿福祉事務所のカップそば、カンパンの無条件的な支給は、冬期における、食料確保の困難性はカバー出来、また、高田馬場、新宿駅手配、新宿駅周辺のブラックマーケットも含めた就労機会が相対的に存在する位置的条件は、労働者が、新宿に野宿先を求める大きな根拠である。野宿地も、冬期は、地上への分散から、西口地下を軸にした駅周辺への過密とも言える集中として現われる。ここで現われる現象は、各地とも同様である。場所、食料、毛布の奪い合い、という現象から、「よそ者」の流入という意識が形成され、先住者との分断が醸し出される。出身階層の違いなどを背景にした意識の格差から生じる「秩序」の差も、対立、分断の根拠とされる。新宿の特徴は、密集の中に、階層的な違いや、生活形態の違いなど、様々な違いが、極限的に混在するということである。
- (2) 新宿的な冬期の支配の攻撃は、既存の運動団体との力関係で決定される。例年年末期に暗躍していた「環境浄化対策会議」が崩壊し、露骨な追い出しが出来なくなった結果、より一層の運動への打撃を主目的とする攻撃へと転化してくる。年末の街頭相談は、実質、越冬施設への入所相談所と変化し、福祉が全面に立った「越冬対策」を踏み絵にした、運動主体である野宿労働者の選別・分断の場となり、また、社会的にも福祉行政の幻想をふりまく場となる。「更生しうる人」と、「そうでない人」を一次的にふるいにかけるのが、街頭相談の場である。保護施設への入所者は、以降、一時保護所などの選別施設を通過し、選別・淘汰されながら、労働力として再生産・再利用されたり、老人ホームや、老人病院での「処分」が決定される。

一方、警察支配の強化が計られ、運動を壊滅させる種々の攻撃が仕掛けられる。運動時の行政と一体となった弾圧シフトはもとより、労働者間の団結内への介入の中、相互不信、支援の分断を煽り、「警察に逆らうとしたい目にあう」という脅しと同時の扇動が直接的な買収や、手配師や、売のルートを利用しながら行なわれる。種々の層が野宿を強いられている現状から発生する自然発生的な反目を、意識的に固定化させようとする団結の破壊である。また、運動の社会的な発展を背景に、これをセクト的に利用しようとする宗教団体や政治団体もまた、警察支配と同様の団結破壊を無自覚に行ない、警察支配を補完していく。

各地で野宿を強いられている労働者を根拠にした新宿越冬闘争の基本的性格は、以上の点に規定される。寄せ場（山谷）支配の再編が、大量の労働者の流動化を促進し、顔付け直行層以外の労働者の寄せ場からの流出と、他寄せ場、駅、公園、新聞手配を経路としながらケタオチ飯場へと吸収されていく現象、又、高齢の労働者を軸に、現場、飯場から排除された大量の労働者が歴史的に寄せ場の外で棄民化させられ、野たれ死んでいく現象、他方で、中小零細企業で働いていた下層労働者が、大不況と産業構造の転換の中、大量に首を切られ、かつ、その一部が棄民の列に合流している現象。これら歴史的に進行している日雇・下層労働者の動態の存在と、それに肉薄する運動的な環が、その一部であれ形成されている新宿の地での越年・越冬闘争は、寄せ場（山谷）越冬だけでは抱扱しえない質と内容を孕むものである。寄せ場の外で動員され、寄せ場の外で棄民化されていく日雇・下層労働者の歴史的な<運命>の、より具体相、実相に迫る取り組みとして、新宿越冬闘争を設定しながら、その内実を人的な交流、共同闘争を経ながら、山谷にかえし、闘争拠点である寄せ場越冬闘争の前進に向けた武器に転化していく。そして、全部の日雇・下層労働者との結合、<我が運命への反撃>のための全般的な反撃と、共同布陣を準備すべく、山谷、新宿を東西の越冬拠点としながら、各駅へパトロールに繰り出す。このことが、山谷—新宿を貫く越冬闘争の中の基本方向として定められるであろう。

基本的な観点は、多くの労働者が現場や、飯場から切り捨てられ、流動化と野たれ死にを強いられている事態を「寄せ場の運動の後退せいで」と寄せ場の中で嘆くことより、現実に、寄せ場の周辺にとどまり、また、寄せ場の外に流出した棄民化の運命にさらされている労働者の存在に着目し、野たれ死にの運命を拒否する彼等の様々な生き様の中に我々運動体が迫り、学び、春にむけた闘争の芽を、寄せ場の中でなくとも、そこから共に作り出すことが越冬闘争の工作目的であるということであろう。

## C、新宿越年・越冬闘争の基本的な戦術

以上の観点からたてられる戦術は、2・17以降、我々が育んできた棄民化に反撃し、新宿で生き抜いていこうとする新宿の仲間の団結の質をとことん防衛、発展させながら、野宿労働者の共同した取り組みとして越年・越冬闘争を闘い抜くということである。我々は、叩きだしを繰り返す東京都、新宿区に対する直接抗議行動と労働者パトロールを両輪の行動環としながら、新宿闘争に着手し、福祉行政への取り組みから、就労保障要求をも含めた総合要求闘争へと闘争の質を発展させてきた。この過程で、我々は、種々の層の特定の利益を強調するのではなく、種々の層が重なりあっている現状から、新宿で野宿を強いられている労働者すべての利益に根差した運動を意識的に追及してきた。そして、そこでの団結の質は、現役、半失業、失業層、または、日雇層、失業者層、街頭生活者層をも貫いた、野宿をしているという共通の強いられた現状から発生する共通の課題に対する反撃であり、〈追い出しやめろ、仕事をよこせ、生活を保障しろ〉との共通のスローガンに体现された新宿の野宿労働者全体の利益を守る闘いの中で育まれた、階層分断を突破する団結の質である。新宿に自生的にあった仲間を気遣い、決して孤立することなく、仲間結びつこうとする共同意識を発展させることを目的とした、労働者パトと、福祉行動の中で、育まれた「仲間の命を仲間の力で守っていく」団結の質。そして、5月連続殺人事件を通して培ってきた、「縦の関係でなく、横のつながりを。暴力による解決でなく、仲間同士の話し合いによって解決しよう」とする更なる共同性の深化と、活動家の意識変化。また、仲間の会の組織的危機を通して、「特別な労働者」を作り、依存的な体質を固定化させるのではなく、新宿の取り組みに参加した仲間が全て闘う仲間の会であるという、組織思想の深化。闘いの発展と、様々な壁にぶちあたりながら、我々は、単なる仲間の結集だけでなく、単なる取り組みだけの団結でなく、日常的生活領域まで含めた仲間の深いつながりを形成してきた。これが、我々が形成してきた最大の成果であり、2・17に反撃しえた質であり、そして、このことを通して我々は敵にもっとも深い打撃を与えている。華々しい闘いや、大きな成果がなくとも、労働者間に形成されてきた団結の質こそが我々が誇り、守らなければならない最大の武器である。

勿論、それは当然に、更なる深化が常に問われている。共通の敵にたち向かえる条件がいかにか労働者間の中に形成されるのか、ある層の労働者には、今現在直接性のないものでも、共通の敵でもあるという認識のもと、階層分断を乗り越え共に闘っていけるような内実をいかにしてつかむのか、これが、深化のベクトルである。階層分断を乗り越えていく内実として、我々が培ってきた団結の質を深化させると同時に、冬期の中の種

々の層の労働者の流入と、敵の支配の攻撃の中、醸し出される分断と孤立化の否定的な事態から出発し、それをより強固な団結を形成していくための武器に転化していくため奮起しなくてはならないという事であり、そして、それは冬の間、労働者間の矛盾が極限的にあらわれる、衣食住の問題の解決を、野宿している労働者が自ら、解決していきけるような条件＝労働者の共同した取り組みをいかに準備できるかにかかっている。

活動家が描き出した<団結の質>をもって、あれが足りない、これが足りないとか理想の団結>を押しつけるのではなく、また、活動家の自己満足と、左翼性を競って下らない勇み足をするのではなく、野宿労働者の現実と、それに規定された運動の現状に則しながら、人的に集約されるのではなく、運動的に集約されるような労働者間のつながりを更に意識的に作り出すことこそが問われているということである。

新宿においては、野宿労働者の団結形態として既に、新宿闘う仲間の会が存在する。仲間の会は、積極面も消極面も含め、これまでの新宿での団結を体現した形態である。越冬期に形成した団結を、いかに仲間の会へ、人的にも内容的にもどれだけ組織化できるかが、越冬闘争と、その後の闘争を展望する上でも最大のバロメーターとなる。

野宿労働者の団結の防衛と発展は、越冬期の最大の課題である。そして、これは、団結の基礎となっている西口地下の「解放区」の防衛でもあり、具体的な仲間の命の防衛でもあり、野宿労働者が様々におかれている社会的不利益に対する防衛でもあり、また、それは、新宿のみならず、各地で野宿においこまれている労働者との熱い連帯であり、つながりの形成である。

#### a、越年期、西口地下を拠点にする意味

新宿越年期闘争が公園占拠形態を取らず、西口地下を拠点に据えて展開する意味は、単なる技術的な問題ではない。西口地下こそ、2・17以降、追い出し＝棄民化攻撃に反撃し仲間の力で守りきった拠点であるからである。仲間の会拠点である4号街路北側通路の「解放区」的な現状に規定され、西口地下は仲間が合流しうる最大の根拠を有している。夜間は仲間の自然発生的な集団野営が既に行なわれており、これこそが団結の基礎となっているものである。団結の防衛とは、労働者拠点の防衛である。野宿労働者の運動は、生活拠点の形成と防衛がなければ、発展しない。そして、新宿においては、生活拠点が闘争拠点ともなっており、西口地下はあらゆる意味においても、絶好の拠点である。故に、技術的なデミリットを差し引いたとしても、西口地下に徹底してこだわらざるを得ない。西口地下を拠点に、炊き出しを行ない、西口地下を拠点にパトロールに出撃してきた、この活動の地平を越冬期だからこそ堅持し、拠点を拠点として打ちかため

なければならない。

#### b、課題としてのパトロール

西口の地下通路全てが我々の拠点である。炊き出しや、集会には、東京都インフォメーション前を利用し、そこに、本部と物資、医療相談所を設けるとしても、終夜、インフォメ前に労働者がいる訳ではない。インフォメ前に労働者を集めることを追及しながら、新宿闘争の地平の共有化と、暴露情宣、および、労働者の出会いと論議の場、を意識的に設定しながら、仲間の種々の相談などを仲間に返し、共に反撃していく力を形成していくことを前提としながらも、多くの労働者はいずれ、西口地下のそれぞれの寝場所に移動する。共同野営の場が広げれば、広いだけ、我々は、そこでおき得る全てのことに対応する視点をもたねばならず、パトロール活動が、最重要の課題となる。広い拠点内をつないでいく線がパトロールであり、それは、当然労働者パトロールとして組織されなくてはならない。そして、その中で、近く新宿に来た仲間との新たな繋がり、暖の確保、医療相談、労働相談、トラブルの対処、および、ピラを使っての暴露情宣。あらゆる領域の活動がパトロールに凝縮されなくてはならない。活動が本部周辺に閉鎖されては意味がない。西口地下拠点を網羅し、本部機能をパトロールとして移動させる中で、始めて、拠点を拠点として打ちかためることが出来るのである。労働者パトロールの深化こそが、拠点建設の要である。

#### c、越年闘争の原則的な基礎活動と課題。

第1回新宿越年闘争は、「黙って野たれ死ぬな！仲間の命を仲間の力で守っていこう」をスローガンにしながら、一人の死者も出さずに、越年期を仲間の力で乗り越えていくことを最大の課題にしなければならない。1回目ということも、運動の到達地平から言っても極めて地味で、原則的な取り組みにならざるを得ない。しかし、形態は地味であったとしても、新宿で始めて越年闘争が開始される地平まで至った地平、そして、5大寄せ場以外の地においても、新宿の他、川崎や福岡等でも野宿労働者の越年の取り組みが行なわれることの歴史的な意義を考えるなら、新宿越年の開始は、野宿労働者の運動にとって大きな第1歩であると言える。

この巨大な第1歩を踏み外さないためにも、野たれ死にを許さない原則的な取り組み、すなわち衣食住の「解決」の問題および、パトロール、医療相談が新宿越年活動の軸になる（食の問題は、技術的な方法が解決されていない事、および、食を通じて形成されてきた新宿の仲間内のつながりを破壊しない方法が未確定である事を要因にして、暫定的に山谷との連携による持ち込み方式で、夜1回だけの配食にせざるを得なかった）。

但し、これらの基礎活動は、活動家の代行で終わってしまうなら、ボランティア化するだけである。問題は、いかに労働者と共に、労働者の団結形成を軸にしながら、軸心の活動を形成しうるかである。医療相談はある程度専門化される面はあるものの、医療講習会などや実践を通し、いかに労働者の生きる知識として、蓄積されるかであり、労働者の医療として、専門化された知識を仲間に返さなくては意味がない。また、労働者パトロールも、ただピラをわたすことを目的化するのではなく、仲間の相談を受けたり、受けたものを全体化することの工夫と作風を作りながら、更に深化させなくてはならない。活動家が集中し得る時期であるからこそ、それは可能なのであるが、活動家の視点は、常に、労働者に向き、労働者から学び、労働者の団結を推進させる目的意識がなければならないことが、当然ながら前提となる。

問題は、原則的な基礎活動を通して、いかにそれを労働者の日常活動としていくのかという視点を抜きにする越年闘争なら、支援が集中して、支援が代行する「越年祭り」にしかならないということであり、棄民化＝野たれ死にと対決する質をもたないということである。棄民化と対決する仲間の団結と活動をいかに形成するのかが、越年闘争であり、それを極めて原則的に行なうことが、最も我々に問われているのである。

#### d、収容政策とのたたかい。

23区枠での本格的な収容政策は、1月12日以降の大田寮への法外収容がメインである。収容政策の実態暴露、および、労働者意識の調査活動が、いかにこの越年期になしうるかに、1月12日以降の収容政策との対決の成否がかかっている。選別、分断を突破する質を収容所内外で構築、展開しうる団結を越年期で形成しなければ、収容政策によって、越年後段の取り組みが空中分解されてしまう。そのためにも、越年期に可能な限り、収容政策第1弾で年末に収容された内藤寮（さくら寮）入寮者（法内）への、面会、聞き取り、ピラ入れなどを行ない、寮内外を貫く取り組みを意識的に追及し、具体的な収容政策の実態暴露と、分断を許さない連帯行動を実践的に作りださなければならない。

#### e、飯場層労働者との結合。

年末期、飯場層労働者の大量の流入が新宿を含め、各駅手配拠点周辺に顕在化する。これらの層の労働者との結合は、我々が飯場への工作方法を有していない現段階に規定され、この時期にしか集中的に成し得ないだけに、重要な意味をもっている。新宿においても、どれだけの量の飯場層が流入し、また、年明け、どのようにして、飯場に戻っていくのかが、経験の不足からまったく未確定なだけに、この実相に迫れるかどうか、新宿闘争の発展にとって極めて重要な課題となる。野宿労働者を主体として西口地下を



拠点とした取り組みから、馬場までをも射程にいった現役日雇層との結合への運動的発展の環を、まずは、越年期パトロールを通じた、現役層、飯場層への意識的な調査＝聞き取り、として開始されなくてはならない。そして、その前段として、馬場寄せ場との意識的な結合を、馬場職安モチ代カンパ及び、馬場寄せ場朝情宣を設定しながら、模索していく。但し、この際、留意しなければならないのが、極東関係である。手配関係の極東の一極支配および、歌舞伎町を含めた新宿でのヤーク勢力の集中を見るなら、奴等の生命線である労働問題への正面からの着手は即、リアクションを引き起こす。これに耐えられるだけの力量を有するには、現状の野宿労働者を軸にする運動だけでは、不十分であり、そのためにも、現役労働者の組織化が問われている。越年期、越冬期の労働問題への着手は、現役労働者、飯場層労働者の組織化を射程にいれ、まずは、関係性の形成と、現役労働者層の意識、および、就労経路やケタオチ飯場などの調査に限定すべきであろう。当然、その中で労働相談を受け付けるが、その解決方法に関しては、細心の注意が必要であるということである。主客の現状を無視し「争議をバンバンやれば、なんとかなる」だらう的な、戦術のアナーキズムは、現状の運動基盤すら掘り崩し、取り返しのつかない闘争の後退局面を招くだけである。

#### D、越冬後段の戦術について、

越冬後段の具体的な戦術については、今だ確定していない。それは、新宿での越年闘争の経験が始めてである我々が、労働者の具体的な動向や、意識をつかめておらず、また、越年闘争がどれだけ仲間のエネルギーを形成できるかが未確定な点に規定されている。これもまた現状である。

基本は収容政策との対決であり、これを、越年期に培った団結の質で、どうはねかえして行くかが、重要な柱となるであろう。大田寮、内藤寮、そして、都庁、新宿福祉を射程にいった闘争方針が求められている。新宿の越年闘争の現場から、その戦術を導き出そう。当面は1月12日の大田寮入寮闘争の『街頭相談』での取り組みが課題となる。

新宿区の特殊性と、新宿区総体を射程に入れた、日雇・下層労働者の運動体としての新宿連絡会の組織的展望、および、新宿西口を拠点とした新宿闘争展開の長期的な展望については、別途論文で組み立てます。

以上、94/12/10

# 越年闘争の各班体制

越年闘争時には、支援一当該組織の総力体制をとる。その上で、本部の統括体制を確立すると同時に、領域別の活動に関しては班体制を確立し、本部を軸に、各班の任務分担を明確にした上で全体で闘争を牽引する。

各班編成と任務分担については以下の通り。

班名	人数	時間	任務
本部	2名	24時間張り付き	全体統括、教宣、企画、防衛、労相など
物資・設営班	1名	変則	物資調達、会場設営、撤去作業など
炊き出し班	2名	午後2時から9時まで	炊き出し準備、運搬、配食、片付け、
医療・生活班	2名	午後6時から朝6時まで	医療生活相談、巡回、衣類・毛布の配布
パトロール班	2名	午後9時から朝6時まで	人民パトロールの組織化、聞き取り活動。

(\*必要人員は、責任者の数)

各班責任者は、常に全体の動向の把握を心掛けると同時に、班活動については、結集した支援者、労働者に呼び掛けながら各班行動を組織すること。及び、情報を班ノートで管理すると同時に、集約した情報を常に本部に伝え、本部との連携を密にしながら行動すること(会場からの移動、撤収の際には必ず、本部に立ち寄る。及び、休息など、人的な移動もそのつど本部に報告すること。また、車の使用時も本部に届けでをし、鍵の管理も本部経由で行うこと。急な事態で、独自判断で行動した時は、事後報告を必ずすること。本部が多忙な時は本部ノートを活用すること)。

全体動向の確認と各班の報告、体制問題の全体調整会議を毎日午後6時と、午後9時に本部前にて行なう(及び、撤収時の朝6時に物資班、医療班、本部との連絡会議をもつ)

各班責任者は必ず1人会議に出席し、各班行動を担う者に責任もってつたえること。また緊急時にはそのつど会議を招集する。また、班同士の細かな連携や確認事項については、班同士の責任者だけで確認しない。必ず、本部を交えて確認すること。それが出来ない場合は本部に事後報告をすること。また、指示の2重化(これは現場の混乱の元)のないよう、各班責任者は指示の貫徹については責任をもって対応すること。独自判断で全体領域に関わる指示を出さない。勝手な行動はとらない。このことを徹底すること。

(もちろん、各班領域については、各班責任者は責任をもって計画的に任務を遂行することを前提として) 各班領域活動で、責任者が判断できない場合は、一時、活動を休止し、本部と相談しながら判断を決定すること。

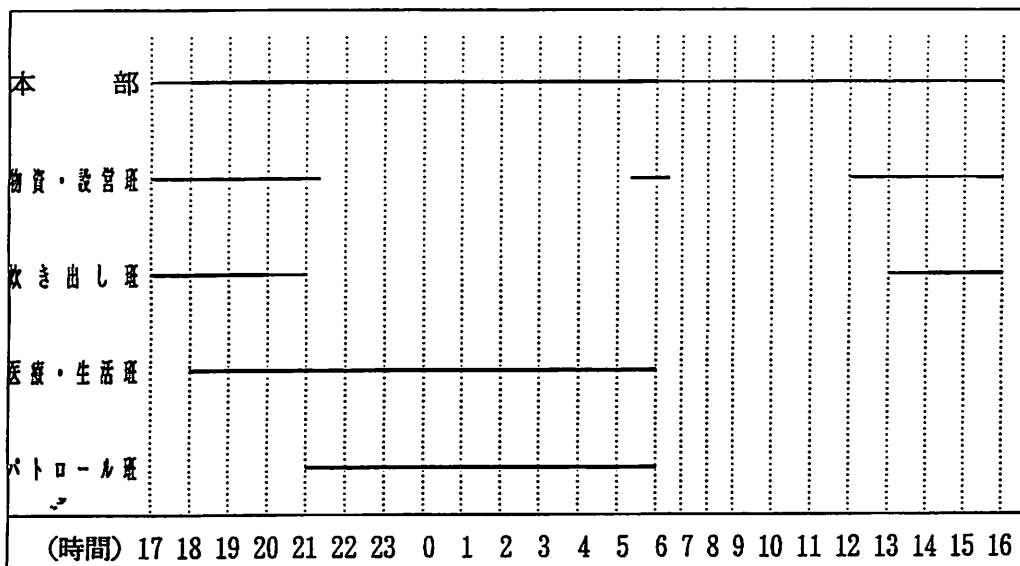
班活動の撤収時には、班ノートを本部に引き渡し、撤収をすること。情報管理については、最終的には本部に一括集中する。

屋間の本部体制は、撤収後、西口地下通路B19に移動し、そこを拠点にする。

<連絡体制>

本部 携帯電話 030-818-3450 (基本的に夜5時から朝6時まで、昼間も電源はONにしておくが、地下道では電波が届かぬため、通じない事が多い)

緊急時の連絡 03-3876-7073 山谷労働者福祉会館3F



( — は集中、 - - は随時ないしは、準集中体制)

物資、設営班 (責任者1人)

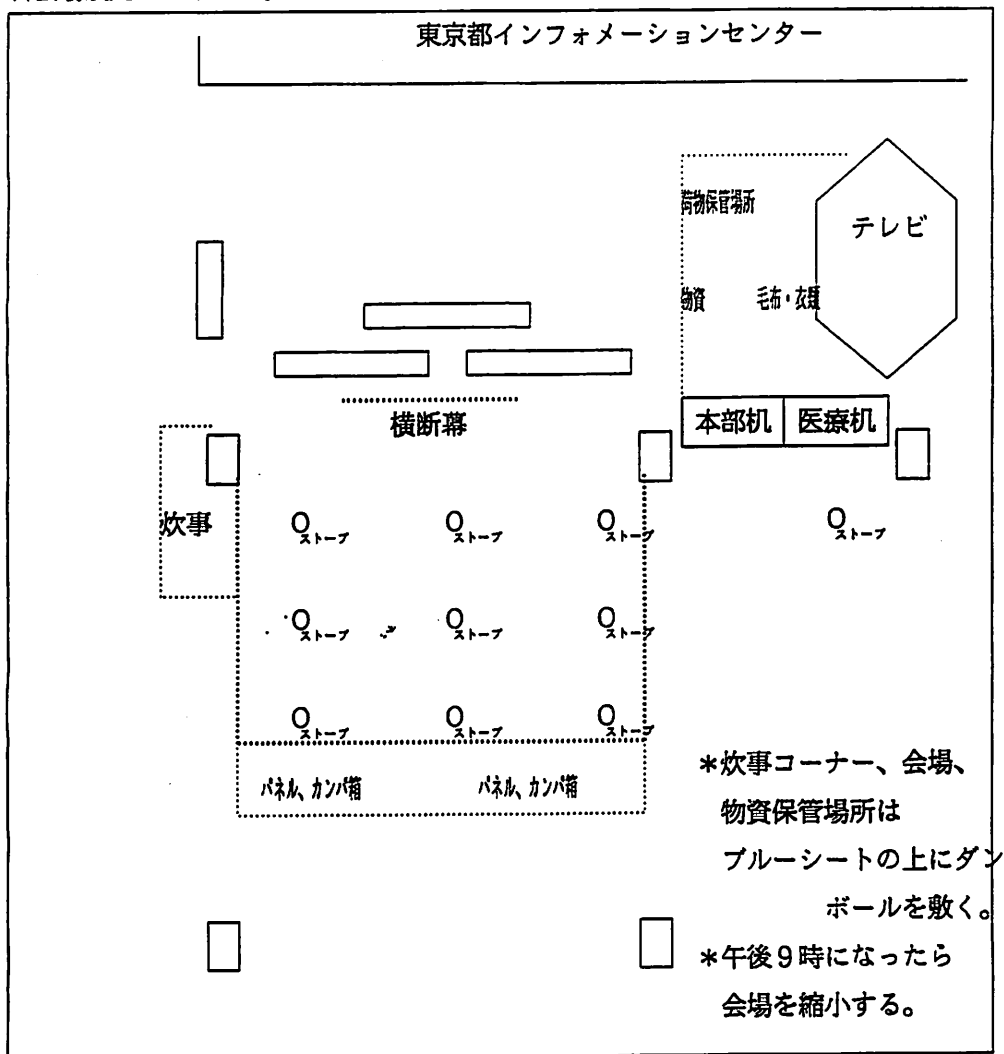
<任務>会場の設営、変更、撤収作業。

会場での雑務(会場内ビラ撒き、仲間の荷物の管理)。

物資の補給。管理。

車の移動。

★会場設定は以下の図。



\*会場の設営は、上記図をもとに作業をする。炊事物資以外の物は、全て、本部裏の物資コーナーで一括管理。ストーブの位置は固定でなく、そのつど変更可(が、火のついているストーブを移動する際、安全のため消化してからの移動を徹底すること)。

<留意する点>

- \*設営、撤収の際、労働者に呼び掛け、共同作業で行なうこと。その際、分かりやすい指示を出し、それを徹底させる事。
- \*設営の際、灯油、消火器など、危険物の管理は責任者が軸となり行なうこと。
- \*撤収の際、物資を拡散させることなく、まとめて収納する事。基本的にトラックに収納、機械類、貴重品などはワゴン車、載りきらなかった場合は、台車でB19に運ぶ。
- \*朝、撤収時には、毎日必ず、ストーブの灯油、発電機のガソリンの減り具合を確認し、補給リストを作成する事。
- \*車両使用後は必ず、車の鍵を本部に戻すこと。

<物資・設営班で使用できる車両>

3号車（トラック）を専属車両とし、補助に2号車（ワゴン）を使用する。

<タイムスケジュール>

PM 5時までに車2台、配置し段取り。（28日は別）

PM 5～6時 会場設営、車2台から荷降ろし、物資のチェック（この時点で不足物資があった場合、不足物資の買い出し指示）

PM 6～7時 来場者の荷物の管理、およびビラ配布

PM 7～9時 カンパ箱管理および、荷物の管理、返却。会場整理。

PM 9時 パトロール出発後の会場変更作業

<任務解除><休息>

AM 5時半 燃料チェック

AM 6時 撤収作業、車2台に収納。

AM 6時半 車の移動。

## 炊き出し班（責任者2人）

<任務> 山谷・玉姫公園での釜めしの炊き出し作業の統括。

玉姫公園から新宿までの運搬作業

炊き出し配食作業、片付け作業。

<留意する点>

新宿越年の炊き出し作業は、山谷での越年闘争と連携しながら、連日玉姫公園で行ない、それを新宿で持ち込む方式にする。これは、技術的にも内容的にもかなりの困難性はあるが、越年闘争の一方の軸が食の問題だけに手の抜けにくい作業となる。

玉姫では、新宿の専用のカマドを設置し、体制的にも山谷越冬実の炊事班とは別に、新宿炊き出し班を組織しなくてはならない。但し、それは、玉姫に別空間が出来る訳ではなく、山谷玉姫越年と有機的に結合していなければならないことが要請される。特に問題となるのが、山谷ー新宿を貫く労働者間の関係である。炊き出し作業を担う山谷の仲間から「新宿は、食うばかりで、手伝いもしない」のような分断を固定化する避難の声があがるようでは、まずい。あくまで、新宿現地から炊き出し班を組織し、この部隊を玉姫に合流させ、その上で、新宿の仲間の事を思う山谷の仲間が共に作業できるような状況を組織していかなければならないだろう。新宿サイドから言っても「仲間の会」軸に、入れ替わり含め可能な限り多くの労働者が、炊き出し作業を担うことで、「山谷におんぶにだっこ」でなく、食をめぐる共同の解決の方途について意識化させるような働きかけをしなくてはならないということである。

山谷ー新宿を貫く団結の橋渡しが、玉姫での炊き出し作業であり、それを担うのが、炊き出し班である。この点に留意した活動を、体制の組織化と同時に起こしてもらいたい。炊き出しを作るのが具体的な最大の任務であるが、その作業をいかに、山谷と新宿の仲間の団結した共同作業で担えるかが、内容的な最大の獲得目標である。

また、新宿現地での配食作業についても、混乱のないようにするためには、予定時間に必ず到着すること。また、配食物資の点検、補給を必ず行なう（買い出しが必要な物資は本部経由で物資班に伝える）。事前に予定食数を盛り付け、多くの人員で一斉に配食する。ゴミ箱の配置を同時にする。残っためしは、1か所にまとめ、必ず責任者がつき遅れてくるような仲間への対応をキチンとすること。盛り付けと配食が一通り終わっ

たら、配食の手伝い部隊は任務解除し、責任者以外は、各人、仲間と共にめしを食うことを徹底させること。仲間が全員めしを食い終わってから片付け作業に入ること（炊き出しが余ったらおにぎりにするーパトロール用）。

また、責任者は、配食数をチェックし、翌日の炊き出し数を必ず設定すること。

現場の作業は集まった仲間呼び掛けることで、共同作業は追及できるが、翌日の玉姫炊き出し作業への参加を独自に組織化しなければならない。車の添乗の関係から言って4人前後がベストであろう。車は夜、玉姫に撤収するので、毎日、新宿の仲間は午後1時にインフォメ前に集まり、責任者の内1人が電車で引率する。新宿へは車で。

<炊き出し班で使用できる車両>

1号車（ワゴン）を運搬用の専属車両とする。駐車場所は玉姫公園。  
鍵の管理は炊き出し班独自で行なう。

<タイムスケジュール>

PM 1時	新宿の仲間を山谷に引率
PM 2時～ 4時	山谷・玉姫公園にて炊き出し作業
PM 6時までに	新宿着
PM 6時	準備開始
PM 6時半	盛り付け
PM 7時	配食、食事終了後片付け
PM 8時前後	片付終了

PM 9時以降 車両撤収ー玉姫での後片付け。

<任務解除>

## 医療・生活班（責任者2人）

<任務> 本部前、机出しによる医療・生活相談。  
会場内の巡回。  
衣類、毛布の引き渡し。

### <留意する点>

医療・生活班は新宿越年の要中の要である。が、現状、医者など専門の医療スタッフが形成されていない状況の中、医療・生活班に医療問題を全てまかせるだけの人材と、体制を我々もっていないだけに、医療問題については、越年期間を通じて全体の課題とする必要がある。その前提の上に、医療・生活班的な課題は、会場内や、パトロールを通じて、医療対応が必要な仲間の状態と具体的な対応含め、一括して集約することがまずは求められる。具体的な対応についての判断は、本部、パトロール班ないしは、医療知識のある支援者と協議しながら決定したとしても、具合の悪い仲間から聞き取った、具体的な病状（訴え）、生活歴、氏名、年齢などと、その具体的な対応（例えば、救急車を呼んだとして、時間、救急隊名称、搬送先の病院など）を確認しだい医療ノートに記録することを責任をもって行なうということである。また、医療班以外のメンバーが聞き取り、対応した場合も、医療班に必ず報告させる。報告を受けた医療班は必ず、報告事項をノートに記録する。医療班ノートを見れば、集約と引継ぎが誰でも出来るよう情報を管理し整理する。まずは、これが、基本的な活動となる。

その基本的な活動の上で、机出しによる、医療相談・生活相談を受けることになる。我々の場合、相談を受けたとしても、具体的、専門的な知識もない訳であるが、別に恐れることはない。相談者の訴えを良く聞き、相談者が何を求めているのかをはっきりと聞く耳さえもっていれば、誰でも出来る活動である。この際、留意する点は、自分が分からないことは、分からないとはっきり言うこと。生活な知識や情報が必要な時、適当な知識や情報に頼るのは非常に危険であり、不利益は相談に来た相談者に振りかかえることを常に認識してもらいたい。分からないことがあったら、自分だけで対応しない。知識もっている者を連れて、一緒に対応する事。労働者と共に、自らも学び、労働者が抱えている諸問題を解決していこうとする姿勢が一番大事なのである。高見に立って物を言っていたら、福祉のケースワーカーとなんら変わらない。共に考え、共に解決していこうとする姿勢がなければ、信頼関係はとうてい作れないことを肝に命じて置く事。



毛布と衣類の管理は、医療・生活班が行なう。毛布、衣類はかなり無条件に出してかまわないが、緊急時のことを想定して、必要最低限の毛布、衣類は、医療用としてストックしておくことを心がける。

西口地下全域は、パトロール班が受け持つことになるが、医療・生活班は、本部前周辺については、責任をもってこまめに（空いてる時間に、もしくは、交替で）巡回を行なう。午後9時以降、朝6時までが巡回の時間であり、最低1時間ごとに巡回を行なうこと。その際、ストーブの火の回りが一番危険である訳で、近くで寝ているような仲間がいたら注意すること。

### 基本的な注意事項

●具合のわるそうな仲間と出会ったら、

○まずは、声をかけてみる。反応がなかったら、じっと見、呼吸の有無を確認する（胸の動きで確認出来ない場合は、口、鼻の先に手をかざして確認する）。

●やばいかなと思ったら、脈拍、意識の有無をまず確認する。

◆緊急を要すると思われる場合は、すぐ救急車を呼ぶ。迷ったらとにかく救急車。

\*脈が40以下だと危険。すぐ救急車を！

\*意識がない場合も、すぐ救急車を！

◇つめたい手で相手の体に触れないこと。カイロなどで指先をあたためてから。

◆立ったまま見下ろして話さないこと。また、ひとりをおお勢で取り囲んでしまわないこと。

救急車がかかるまでにできる事。

わからなければやらないくてよい。わかる者を呼ぶこと

□体温が極端に低下している場合、服が濡れていたら着替えさせ、風が当たらないよう

にし、外から熱を与える。足の裏と脇腹にカイロをテープで張り付けるのが有効。ただし火傷をさせないように。

■外傷の場合、大きな傷だけでなく目立たない傷が他にないか注意する。

□出血が激しい場合、殺菌ガーゼを傷口にあてて上から手で押さえて止血する。殺菌ガーゼがなければタオルやシャツなどの布を火であぶって使う。止血帯（しばって止血する方法）は使わない。

■火傷は冷水で冷やす（極端に衰弱している場合はやらないほうがいいこともある）。皮膚が服にくっついてはがれてしまうので服を脱がせてはいけない。

□意識を失っている場合は気道を確保しなければならない。頭を後ろに反らせ、可能ならうつぶせにして頭を横に向ける。

■ショックを起こしている場合（蒼白になり皮膚が冷たくなる）、止血と呼吸を確保し、足を30センチくらい上げて寝かせる。

□てんかんと思われる場合（ケイレン、発作を起こしている時）、頭をぶつけないよう、まず、回りの物をどかせ、ケイレンが落ち着くまで待つ。時間が大切。5分以上は危険。その後呼び掛け、意識の回復を確認する。すぐに救急車を呼ぶ、周囲は静かにさせる。気道が確保できていれば動かさない方がよい。またケイレンの時間を計っておき、救急隊に伝えよう。

## 救急車がついたら

▲救急隊にすぐ、であった時の状況を知らせる。また、病状、入院歴、通院中か否か、本人から聞きとったことを救急隊に伝える。

△救急車のナンバーと、救急隊名、時刻を確認する。

▲新宿管轄の救急隊には、現状では、基本的には添乗できないが、理由をつけ、添乗を要求する。また、添乗出来なかった場合も搬送先の病院が確認出来るまで粘る。それも出来なかった場合、

救命救急センター 03 (3212) 2323

に問い合わせ、搬送先の病院を確認する。

△救急車で搬送されても入院できない場合がある。基本的に入院が微妙な者は、搬送先まで車、電車などで向かえに行く。もしくは、救急隊にこちらの電話番号を教え、入

院できなかつた場合、向かえに行く旨伝え、連絡をしてもらうよう要求する。

(ただし、救急隊は警察とトーカーである。必要なこと以外はしゃべらないように)

本部電話030-818-3450

いずれにせよ、救急を呼びっぱなしではなく、後のホローもきちんとやることを追求する。

病院から戻ってきた仲間、  
もしくは、病気の仲間には

▼新宿西口地下でみんなで支えあってがんばろうというのが越年闘争中の基本であるが、極度に衰弱しながらも入院できなかつた人や、病状により特殊な対応が必要な仲間には、救急以外で入院できるルートを探るか、安静する場所を確保するしかない。

**スポ健** 山谷越年対策である大田寮(なぎさ寮)入寮受付である、リバーサイドスポーツセンターに、健康相談が併設される。設備はほとんど整っておらず、非常に簡単な問診が主であるが、越年期、救急以外で入院出来るルートはこれしかない。期間は、12月29/30/31日の3日間、朝9時までである。これを利用する場合、山谷越冬実医療班と協力しながら、前日の夜、もしくは、当日の早朝、車で山谷に搬送し、付き添いを付け、入院を迫及する。31日は山谷では体制を組みながら、病弱な仲間の入院を迫及する取り組みをする予定なので、出来ればそれに合流したい。

## 山谷労働者福祉会館2階

山谷越冬実では安静が必要な病気の仲間のために、会館2階ホールに布団を敷いて仲間の安静場所としている。新宿の仲間、31日以降、3日まで、安静を必要とする病気の仲間が出た場合、ここを山谷越冬実医療班と協力しながら使わせてもらうことになる。利用する場合、事前連絡をし、搬送は車で、そして、

病状や、聞き取った記録（カルテ）を、必ず、山谷の医療班のメンバーに手渡す事、及び、1月4日早朝に、必ず向かえに行き、新宿福祉行動につなげる事。

## 1月4日新宿福祉行動

越年期間に出会い、病院などにいけなかった仲間は、1月4日の日に、新宿福祉行動を全体の方で取り組む。朝、撤収作業を行ったあと、8時にインフォメーション前に結集し、福祉事務所に朝一番に乗り込む（すでに福祉には通告済み）。病弱、高齢の仲間の生活保護の獲得を最大の目的として、1/4 福祉行動を越年闘争を乗り切った力でやりきる。

### 我々が出来る病気の対応

§ 救急車を呼ばなくてはならないような場合は自分では手をださないこと。我々が対応できるのは傷が軽い場合、応急的な処置は済んでいてそのあと定期的に包帯を取り替えるような場合だけである。

§ 医療バックは、緊急時の対応に必要なものだけを入れる。巡回とパトロールには、必ずもって行くこと。医療バックは2個、医療班机に配置しておく。出し入れは、責任者が必ずチェックすること。

<バックの基本的な中身>

☆カイロ ☆紙コップ ☆体温計 ☆マキロン ☆カットバン ☆滅菌ガーゼ  
☆はさみ ☆ビニール手袋 ☆サージカルテープ ☆ゲンタシン軟膏  
☆包帯またはネット包帯 ☆タオル ☆懐中電灯 ☆ビニール袋  
☆湿布薬 [ 冷湿布一打身 ← 捻挫で腫れている時。  
温湿布一神経痛やリウマチ、打身、捻挫で腫れていない時 ]  
☆せいろ丸 ☆かっこんとう（かぜ薬の代わり） ☆血圧計（電子計）

§ バックの中身は責任者は、定期的に点検すること。不足分があったら補充する。

## § 外傷の消毒

- 手当てをする前に自分の手を洗う。ゴム手袋があればつける。
- 傷口に滅菌ガーゼをかぶせて、まわりの皮膚についた土や汚れを、出来るだけ傷口の近くまで水で洗う。  
(刺し傷など深い傷は、少しの間、止血しないで出血させておけば異物が洗い流されることがある)
- 傷口を水で洗う。こすってはいけない。異物や死んだ組織片を完全に取り除くくらい洗う。
- 傷口を消毒する。マキロンを傷口につける。さらに、滅菌ガーゼにゲンタシン軟膏をつけて傷口にあて、サージカルテープで貼り付け、包帯またはネット包帯をする。
- マキロンとカットバンで済むくらいの傷ならわざわざ大袈裟な消毒をする事はない。

## § 薬品の取り扱い

医師の処方が必要でない市販薬を医療机に置いておく。

が、ゆっくり体を休める条件がなければ、薬でよくなるとは限らない。薬をよく話しも聞かずに手渡すことはあまり薦められない。本人の病状、生活形態、これから体のことをどうしていくのか等、ゆっくりと話しをし、本人の意思などを確認した上で、渡すのがベターであろう。

### <医療・生活班で使用できる車両>

2号車（ワゴン）を随時使用する。但し、2号車は物資保管にも使用するので、物資・設営班と調整をつけ、使用のこと。鍵の管理は本部で。  
緊急時には、タクシーを使用。タクシー料金は、領収書を添えて本部に来れば精算する。金のないものは、立て替えるので本部まで。

### <タイムスケジュール>

PM 6時            医療・生活机設置。物資の確認。

PM 6時以降、    医療・生活相談開始。

PM 9時以降、相談を行うと同時に随時（出来れば1時間ごとに）会場周辺を巡回。

AM 0時以降、緊急事態がない限り、交替で休息。

AM 6時            撤収

#### <基本的に任務解除>

\*緊急時については、そのつど、本部と医療・生活班が軸になり対応し、支援を含め、全体の体制で対応するので、医療・生活班の責任者2人は、基本的に相談机を軸に行動する。

## 人民パトロール班 (責任者2人)

<任務> 新宿、周辺の人民パトロールを労働者を軸に労働者パトとして組織し、実行する。  
パトロールで出会った仲間からの聞き取り活動を積極的に行い、各種の相談に乗る。全体は、とりわけ医療パトロール的な位置付けをもち、丁寧なパトロールを行う。  
及び、人数チェック

### <留意する点>

あくまで、いままで培ってきた労働者パトロールにこだわり、仲間が仲間の事を気遣い、仲間の命を防衛していく仲間によるパトロールに終始すること。責任者は部隊の統制は最小限にし(結集場所と時間だけ確認すればよい)仲間の中に入り、仲間とともに話し込みに努める事。そして、責任者は可能な限り、野宿をしている仲間、一人、一人を自分でチェックしながら回ること。

新宿内パトは、本部を軸としながら、越年の闘いの線を延ばして行く取り組みである。仲間の意識を閉塞させずに、同じ仲間と結合していく実践環がパトロールであり、会場まで問われていることは、新宿内パトにも同質で問われてくる。本部含めた全体の機能を全体で巡回させていくのが新宿内パトである。すなわち、「一人の野たれ死にも出さない」「仲間の命を仲間の力で守っていく」越冬闘争の軸心がパトロールの中で問われるということであり、とりわけ、会場に来ない、孤立させられた仲間や、会場に来れない仲間に対する働きかけと、医療対応が主となる。新宿内パトの場合、会場に来ていない仲間と積極的に出会い、話しを聞き、抱えている問題を共に解決していくきっかけをつくること。その中で、仲間の意識や現状を具体例の積み重ねで把握しながら、全体像に迫る視点を形成していくことが課題として設定される。パトロール班の精神は常に「仲間の中へ!」である。現実から把握し、現実から学び、現実の仲間と共にたたかう関係を作って行く。このことに徹底してこだわることである。

新宿内のパトロールでは医療バッグを責任者が必ずもち、医療対応は責任をもっておこなう。自分で判断できない場合は、本部に戻り、知識のある者を連れて行く。可能であれば、医療相談所まで来てもらう。また、毛布のない仲間には、毛布を差し入れる。

食事をしていない仲間にも食事を差し入れる。衣類のない仲間には、衣類を差し入れるなど、細心の注意と、丁寧な対応が必要とされる。

新宿内のパトロールは、一日3回行ない、パトロールの性格もそのつど変化させる。

9時からのパトロール	労働者に呼び掛け、労働者パトを徹底的に追及する。 ビラを撒き、話し込みを軸にしたパトロール。
0時からのパトロール	新宿内を3班（西口地下、南一東口、西口地上）に分け、 医療巡回的なパトロールと人数チェック。
4時からのパトロール	西口地下、及び、引継ぎのある仲間への、医療巡回パト ロール。

新宿内パトロールは、独自に立てるのではなく、会場前と深く連携しながら、全体の体制の中で、キチンと位置付ける。

周辺パトロールは、連日9時から、新宿内パトと2班に分け、馬場、池袋、渋谷、東京駅へと繰り出す。すでに越年前段の調査パトを行なっているが、各地の仲間との関係性の現状からいえば、まだ未熟であり、今後の関係性の構築のためへの布石として、越年期の集中した周辺パトに取り組む。

周辺パトの基本的なスタンスは、医療パトをベースに、新宿越年闘争を同じ仲間幅広く伝え、合流を呼び掛けるながら、話し込みの中、各地の仲間の現状を学び、認識し、共に闘える関係性を構築することである（尚、若干の関係性を形成している東京駅パトは、山谷パトロール班と新宿パトロール班の合同の取り組みとして、山谷、新宿、東京駅の仲間の交歓の場として設定する）。

周辺パトでの医療対応については、基本的な構えは、新宿と同様である。パトロールには医療バッグと、非常食のカンパンを用意する。体制的には弱くなる中が、必要最低限の対応を心がけたい。判断は、周辺パトの責任者が行なう。独自で、判断できない点があったら、本部に電話をしながら連携しながら対応をするが、場所が離れる関係上、最終的には、責任者の判断にかかっている。移動は、電車で行なう。参加する労働者が迷子にならないよう、ある程度ダンゴになってパトを行なう、現場で班を形成する時は、再結集の場所と時間を徹底させる。万が一、迷子になった場合を考え、帰りのキップを行く時に渡しておくなどの、注意が必要だろう。



<タイムスケジュールとパト予定>

	28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日
	新宿 駒	新宿 駒	新宿 駒	新宿 駒	新宿 駒	新宿 駒	新宿 駒
8時	池袋	馬場	渋谷	東京	池袋	馬場	渋谷
9時	3班	3班	3班	3班	3班	3班	3班
10時							
11時							
12時							
0時							
1時							
2時							
3時							
4時							
5時							
6時							

\*時間は出発時間と、本部前帰還予定時間

### <聞き取りの記録について>

- 責任者は、各パトロールの記録を帰還後、必ず、記録ノートにつけること。
- 時間、天候、責任者、参加労働者の人数、集約の中で全体動向を規定するような事項。および反省点。医療対応が必要な仲間、引継ぎが必要な仲間については、状態とその仲間がどこにいるのか等、詳しく記載すること。  
0時からのパトは、人数を詳しく記載し、全体の責任者が3班をまとめて記載すること。
- 聞き取り用紙を別に作成するので、とりわけ、パトに回った支援などに書いてもらうこと。ただし、これはアンケートではなく、聞き取った具体的な内容を全体化し、集約するためのものなので、労働者の前では、書かないことを徹底すること。帰って来たら各人が書き込み、本部で、管理、保管すること。

### <人パト班が使用できる車両>

基本的に移動は電車。急を要するときは、タクシーを利用する。電車賃、タクシー代の請求は本部で。

# 94-95 新宿越年闘争スケジュール表

	0:00			6:00	
12月 28日 (水)					
12月 29日 (木)	←本部、医療班体制 ←新宿パト→		←新宿パト→	← スポ健 撤収 *対象者がいたら →	
12月 30日 (金)	←本部、医療班体制 ←新宿パト→		←新宿パト→	← スポ健 撤収 *対象者がいたら →	
12月 31日 (土)	←本部、医療班体制 ←新宿パト→		←新宿パト→	← スポ健 撤収 *対象者がいたら →	
1月 1日 (日)	←本部、医療班体制 ←新宿パト→		←新宿パト→	撤収	
1月 2日 (月)	←本部、医療班体制 ←新宿パト→		←新宿パト→	撤収	
1月 3日 (火)	←本部、医療班体制 ←新宿パト→		←新宿パト→	撤収	
1月 4日 (水)	←本部、医療班体制 ←新宿パト→		←新宿パト→	撤収	←新宿福
<メモ>					

12:00		18:00	24
	←炊き出し準備三姫→ ←突入、準備→	準備 配食 ←ビデオ社説、集会→	←医療班活動→ ←新宿パト→ ←池袋パト→
	←炊き出し準備三姫→	準備 配食 ←討論集会→	←医療班活動→ ←新宿パト→ ←馬場パト→
	←買い出し→ ←炊き出し準備三姫→ ←大掃除→	準備 配食 ←音楽、医療回診→	←医療班活動→ ←新宿パト→ ←渋谷パト→
	←炊き出し準備三姫→ ←さくら寮面会→	準備 配食 ←カラオケ大会→	←医療班活動→ 紅白歌合戦 読みき ←新宿パト→ ←東京パト→
	←炊き出し準備玉姫→ ←餅つき大会、芝居→	準備 配食 ←新年映画会→	←医療班活動→ ←新宿パト→ ←池袋パト→
	←炊き出し準備玉姫→	準備 配食 ←新年映画会→	←医療班活動→ ←新宿パト→ ←馬場パト→
	←炊き出し準備玉姫→ ←さくら寮面会→	準備 配食 ←集約集会→	←医療班活動→ ←新宿パト→ ←渋谷パト→
社行動	昼飯 集約集会 (区役所前)		